



設定ファイルの取り扱い

この章は、次の内容で構成されています。

- [構成ファイルについて, on page 1](#)
- [構成ファイルに関する注意事項と制限事項 \(2 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルの管理, on page 2](#)
- [構成のアーカイブと構成ログ \(14 ページ\)](#)
- [デバイス コンフィギュレーションの確認, on page 19](#)
- [コンフィギュレーションファイルを使用した作業例, on page 20](#)

構成ファイルについて

構成ファイルには、Cisco NX-OS デバイス上の機能を構成するために使用される Cisco NX-OS ソフトウェアのコマンドが保存されます。コマンドは、システムを起動したとき (startup-config ファイルから)、または構成モードで CLI にコマンドを入力したときに、Cisco NX-OS ソフトウェアによって解析 (変換および実行) されます。

スタートアップ構成ファイルを変更するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用してスタートアップ構成に実行構成ファイルを保存するか、ファイルサーバーからスタートアップ構成へ構成ファイルをコピーします。

コンフィギュレーション ファイルのタイプ

Cisco NX-OS ソフトウェアの構成ファイルには、実行構成とスタートアップ構成の 2 種類があります。デバイスは、その起動時にスタートアップコンフィギュレーション (startup-config) を使用して、ソフトウェア機能を設定します。実行コンフィギュレーション (running-config) には、スタートアップコンフィギュレーションファイルに対して行った現在の変更が保存されます。2つのコンフィギュレーションファイルは別々の設定にできます。デバイス構成は、永続的ではなく一時的に変更することもできます。この場合、グローバルコンフィギュレーションモードでコマンドを使用することにより、実行コンフィギュレーションを変更しますが、スタートアップ コンフィギュレーションにはその変更を保存しないようにします。

実行構成を変更するには、**configure terminal** コマンドを使用して、グローバル構成モードを開始します。Cisco NX-OS 構成モードの使用時には、通常コマンドはすぐに実行され、入力直後または構成モードを終了した時点で実行構成ファイルに保存されます。

スタートアップコンフィギュレーションファイルを変更するには、実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションに保存するか、コンフィギュレーションファイルをファイルサーバからスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードします。

Related Topics

[実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存](#) (2 ページ)

[リモートサーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード](#) (5 ページ)

構成ファイルに関する注意事項と制限事項

構成ファイルに関する注意事項と制限事項は次のとおりです。

- NX-OS 7.0(3)I7(4) 以降、5 ~ 60 秒の遅延後に再起動を有効にする **reload timer** コマンドがサポートされています。

コンフィギュレーションファイルの管理

ここでは、コンフィギュレーションファイルの管理方法について説明します。

実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存

実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存することで、次にデバイスをリロードするときのために変更を保存できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show running-config**
2. **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

リモートサーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

内部メモリに保存されたコンフィギュレーションファイルのリモートサーバにコピーして、バックアップとして使用したり、他の Cisco NX-OS デバイスを設定するために使用したりすることができます。

SUMMARY STEPS

1. **copy schemerunning-configserver://[url /]filename /**
2. **copy schemestartup-configserver://[url /]filename /**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy schemerunning-configserver://[url /]filename / Example: <pre>switch# copy running-config tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak</pre>	リモートサーバへ実行コンフィギュレーションファイルをコピーします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 2	copy schemestartup-configserver://[url /]filename / Example: <pre>switch# copy startup-config tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak</pre>	スタートアップコンフィギュレーションファイルのリモートサーバにコピーします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。

Example

次に、リモートサーバへ構成ファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy running-config
tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak
switch# copy startup-config
tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak
```

リモートサーバからの実行コンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモートサーバにアップロードしたコンフィギュレーションファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモートサーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用して実行コンフィギュレーションにダウンロードします。

Before you begin

ダウンロードするコンフィギュレーションファイルが、リモートサーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

お使いのデバイスからリモートサーバへのルートを確認します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルトゲートウェイがない場合、お使いのデバイスとリモートサーバは同じサブネットワーク内にある必要があります。

ping を使用してリモートサーバへの接続を確認します。または ping6 を参照してください。

SUMMARY STEPS

1. `copy scheme://server[url]/filename running-config`
2. (Optional) `show running-config`
3. (Optional) `copy running-config startup-config`
4. (Optional) `show startup-config`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy scheme://server[url]/filename running-config Example: <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	リモートサーバから実行コンフィギュレーションファイルをダウンロードします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 3	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
ステップ 4	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

リモートサーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモートサーバにアップロードしたコンフィギュレーションファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモートサーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用してスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードします。



Caution この手順を実行すると、Cisco NX-OS デバイス上のすべてのトラフィックが中断されます。

Before you begin

コンソールポート上のセッションにログインします。

ダウンロードするコンフィギュレーションファイルが、リモートサーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

お使いのデバイスからリモートサーバーへのルートを確認します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルトゲートウェイがない場合、お使いのデバイスとリモートサーバーは同じサブネットワーク内にある必要があります。

pingを使用してリモートサーバへの接続を確認します。または **ping6** を参照してください。

SUMMARY STEPS

1. write erase

2. **reload**
3. **copy scheme://server/[url /]filename running-config**
4. **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase Example: <pre>switch# write erase</pre>	スタートアップコンフィギュレーションファイルを削除します。
ステップ 2	reload Example: <pre>switch# reload This command will reboot the system. (y/n)? [n] y ... Enter the password for "admin": <password> Confirm the password for "admin": <password> ... Would you like to enter the basic configuration dialog (yes/no): n switch#</pre>	Cisco NX-OS デバイスをリロードします。 Note デバイスを設定するために、セットアップユーティリティを使用しないでください。
ステップ 3	copy scheme://server/[url /]filename running-config Example: <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	リモートサーバから実行コンフィギュレーションファイルをダウンロードします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 4	copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションファイルとして保存します。
ステップ 5	(Optional) show startup-config Example: <pre>switch# show startup-config</pre>	実行設定を表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

外部フラッシュメモリ デバイスへのコンフィギュレーションファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーションファイルをバックアップとして外部フラッシュメモリ デバイスにコピーできます。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {usb1: | usb2:}[directory/]
2. **copy running-config** {usb1: | usb2:}[directory/]filename
3. **copy startup-config** {usb1: | usb2:}[directory/]filename

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {usb1: usb2:}[directory/] Example: switch# dir usb1:	外部フラッシュメモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy running-config {usb1: usb2:}[directory/]filename Example: switch# copy running-config usb1:dsn-running-config.cfg	外部フラッシュメモリ デバイスに実行コンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy startup-config {usb1: usb2:}[directory/]filename Example: switch# copy startup-config usb1:dsn-startup-config.cfg	外部フラッシュメモリ デバイスにスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

外部フラッシュメモリ デバイスからの実行構成のコピー

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、外部フラッシュメモリ デバイスに保存された構成ファイルをコピーすることで、デバイスを構成できます。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {usb1: | usb2:}[directory/]
2. **copy** {usb1: | usb2:}[directory/]filename **running-config**
3. (Optional) **show running-config**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {usb1: usb2:}[directory/] Example: switch# dir usb1:	外部フラッシュメモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy {usb1: usb2:}[directory/]filename running-config Example: switch# copy usb1:dsn-config.cfg running-config	外部フラッシュメモリ デバイスから実行コンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
ステップ 5	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

外部フラッシュメモリ デバイスからのスタートアップ構成のコピー

デバイス上のスタートアップ構成を復元するには、外部フラッシュメモリ デバイスに保存された新しいスタートアップ構成ファイルをダウンロードします。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {usb1: | usb2:}[directory/]
2. **copy** {usb1: | usb2:}[directory/]filename **startup-config**

3. (Optional) show startup-config

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {usb1: usb2:}[directory/] Example: switch# dir usb1:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy {usb1: usb2:}[directory/]filename startup-config Example: switch# copy usb1:dsn-config.cfg startup-config	外部フラッシュ メモリ デバイスからスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。filenameの引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

内部ファイルシステムへのコンフィギュレーションファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーションファイルをバックアップとして内部メモリにコピーできます。

SUMMARY STEPS

1. **copy running-config** [filesystem:][directory/] | [directory/]filename
2. **copy startup-config** [filesystem:][directory/] | [directory/]filename

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy running-config [filesystem:][directory/] [directory/]filename Example: switch# copy running-config bootflash:sw1-run-config.bak	実行コンフィギュレーションファイルを内部メモリにコピーします。 filesystem、directory、およびfilenameの各引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	copy startup-config [filesystem:][directory/] [directory/]filename Example: switch# copy startup-config bootflash:sw1-start-config.bak	スタートアップコンフィギュレーションファイルを内部メモリにコピーします。 filesystem、directory、およびfilenameの各引数では、大文字と小文字が区別されます。

Related Topics

[ファイルのコピー](#)

以前の構成へのロールバック

メモリ破損などの障害が発生し、バックアップされたバージョンからコンフィギュレーションを復元することが必要になる場合があります。



Note **copy running-config startup-config** コマンドを実行するたびに、バイナリ ファイルが作成され、ASCII ファイルが更新されます。有効なバイナリ コンフィギュレーション ファイルを使用すると、ブート全体の時間が大幅に短縮されます。バイナリ ファイルはアップロードできませんが、その内容を使用して既存のスタートアップコンフィギュレーションを上書きできます。この項で説明している **write erase** コマンドがバイナリ ファイルをクリアします。

SUMMARY STEPS

1. **write erase**
2. **reload**
3. **copy configuration-file running-configuration**
4. **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase Example: switch# write erase	スイッチの現在のコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 2	reload Example: switch# reload	デバイスを再起動します。デバイスを起動して実行できるように、 nx-os イメージ ファイルを提供するように求められます。
ステップ 3	copy configuration-file running-configuration Example: switch# copy bootflash:start-config.bak running-configuration	以前に保存されたコンフィギュレーションファイルを実行コンフィギュレーションにコピーします。 Note <i>configuration-file</i> ファイル名引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 4	copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

存在しないモジュールのコンフィギュレーションの削除

シャーシから I/O モジュールを取り外す場合は、実行コンフィギュレーションからそのモジュールのコンフィギュレーションを削除することもできます。



Note シャーシの空のスロットに対するコンフィギュレーションのみを削除できます。

Before you begin

シャーシから I/O モジュールを取り外します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show hardware**
2. **purge module slot running-config**
3. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show hardware Example: switch# show hardware	デバイスに取り付けられたハードウェアを表示します。
ステップ 2	purge module slot running-config Example: switch# purge module 3 running-config	実行コンフィギュレーションから存在しないモジュールのコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 3	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

構成の削除

デバイス上の構成を削除して、工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。「構成」は、「show startup」で表示されるスタートアップ構成を指します。他の内部アプリケーションまたはプロセスの状態はクリアされません。

構成の削除機能は、Nexus 9200-X、Nexus 9300-EX、-FX、-FX2、-FX3、および Nexus 9500 シリーズ スイッチでサポートされています。

デバイス上の永続メモリに保存された次のコンフィギュレーションファイルを削除できます。

- 新興企業
- Boot

- [デバッグ (Debug)]

write erase コマンドを使用すると、次のものを除くすべてのスタートアップ構成が削除されます。

- ブート変数定義
- 次のものを含む mgmt0 インターフェイス上の IPv4 および IPv6 構成：
 - アドレス
 - サブネットマスク
 - 管理 VRF のデフォルト ゲートウェイ/ルート

mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成を削除するには、**write erase boot** コマンドを使用します。パッチ rpm、サードパーティの rpm、構成以外の /etc ディレクトリ内のアプリケーション構成など、すべてのアプリケーション永続性ファイルを削除するには、「install reset」を使用します。このコマンドは、7.0(3)I6(1) リリースで追加されました。



Note 管理 VRF に複数の IPv6 デフォルトルートが存在する場合、「copy rs」を使用する直前に管理 VRF の **show ipv6 static-route** コマンドで最初に表示されたデフォルトルートは、**write erase** および **reload** 後に復元されます。



Note **write erase** を入力した後 コマンドで、ブレイクアウト構成を適用するには、ASCII 構成を 2 回リロードする必要があります。

SUMMARY STEPS

1. **write erase [boot | debug]**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase [boot debug] Example: <pre>switch# write erase Warning: This command will erase the startup-configuration. Do you wish to proceed anyway? (y/n) [n] y</pre>	永続メモリのコンフィギュレーションを削除します。デフォルトのアクションにより、スタートコンフィギュレーションが削除されます。 The boot オプションを使用すると、mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成が削除されます。 The debug オプションを使用すると、デバッグ構成が削除されます。

	Command or Action	Purpose
		<p>Note mgmt0 インターフェイスで複数の IPv6 アドレスを設定すると、show ipv6 interface <intf> コマンドで「copy rs」を使用する前に最初に表示される IPv6 アドレスは、書き込み消去およびリロード時に復元されます。</p> <p>Note 実行構成ファイルは、このコマンドによって影響を受けません。</p>

非アクティブなコンフィギュレーションのクリア

非アクティブな QoS と ACL のコンフィギュレーションの両方またはいずれか一方をクリアできます。

手順の概要

1. (任意) **show running-config** タイプ **inactive-if-config**
2. **clear inactive-config policy**
3. (任意) **show inactive-if-config log**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) show running-config タイプ inactive-if-config 例： <pre># show running-config ipqos inactive-if-config</pre>	非アクティブなアクセス制御リスト (ACL) または Quality of Service (QoS) の構成を表示します。 <i>type</i> 引数の値は、 aclmgr および ipqos です。 <ul style="list-style-type: none"> • aclmgr : aclmgr の非アクティブな構成を表示します。 • ipqos : qosmgr の非アクティブな構成を表示します。
ステップ 2	clear inactive-config policy 例： <pre># clear inactive-config qos clear qos inactive config Inactive if config for QoS manager is saved at/bootflash/qos_inactive_if_config.cfg for vdc default you can see the log file @ show inactive-if-config log</pre>	非アクティブなコンフィギュレーションをクリアします。 <i>policy</i> 引数の値は、 qos および acl です。 次に、値について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> • qos : 非アクティブな QoS 構成をクリアします。 • acl : 非アクティブな ACL 構成をクリアします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • acl qos : 非アクティブな ACL 構成および非アクティブな QoS 構成をクリアします。
ステップ 3	(任意) show inactive-if-config log 例 : <pre># show inactive-if-config log</pre>	非アクティブなコンフィギュレーションをクリアするのに使用されたコマンドを表示します。

構成のアーカイブと構成ログ

このセクションには、構成アーカイブと構成ログに関する情報が含まれています。

構成アーカイブの詳細

構成アーカイブは **configure replace** コマンドにより提供される構成のロールバック機能を強化するために、構成ファイルのアーカイブの保存、整理、管理を行うことを目的としたメカニズムです。構成アーカイブの導入前にも、実行構成のコピーを **copy running-config destination-url** コマンドを使用して保存し、ローカルやリモートに置換ファイルを保管できました。ただし、この方法ではファイルの自動管理を行うことはできませんでした。一方、構成の置換とロールバック機能では、実行中の構成のコピーを構成アーカイブに自動的に保存する機能を備えています。アーカイブされたファイルは構成のチェックポイントとして参照することができ、**configure replace** コマンドを使用して以前の構成状態に戻すために利用できます。

archive config コマンドを使用すると、Cisco IOS 構成を構成アーカイブに保存できます。その場合、標準のディレクトリとファイル名のプレフィクスが使用され、バージョン番号（およびオプションでタイムスタンプ）が自動的に付加されます。バージョン番号は連続したファイルを保存するごとに、1 つずつ大きくなります。この機能により、保存した構成ファイルを一貫して識別できます。アーカイブに保存する実行コンフィギュレーションの数は指定することができます。アーカイブ内のファイル数が上限値に達すると、次に最新のファイルが保存されるときに、最も古いファイルが自動的に消去されます。**show archive** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションアーカイブに保存されているすべてのコンフィギュレーションファイルに関する情報が表示されます。

構成ファイルを保存する構成アーカイブは、**configure replace** コマンドで使用することによって、ブートフラッシュ、FTP、TFTP のファイルシステム上に配置できます。



(注) この機能の TFTP および FTP は、VRF 管理を使用します。

設定アーカイブの特性の設定

archive config コマンドを使用する前に、コンフィギュレーションアーカイブを設定しておく必要があります。構成アーカイブの特性を構成するには、次の作業を実行します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **archive**
3. switch(config-archive)# **path url**
4. switch(config-archive)# **maximum number**
5. switch(config-archive)# **time-period url**
6. switch# **write-memory**
7. switch# **archive config**
8. switch# **show archive log config all**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal 例： switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# archive 例： switch(config)# archive	アーカイブ構成モードを開始します。 (注) このコマンドは、Cisco Nexus 9300-EX、-FX、および -R シリーズ スイッチに適用されません。
ステップ 3	switch(config-archive)# path url 例： switch(config-archive)# path bootflash:myconfig	構成アーカイブに、ファイルのディレクトリとファイル名プレフィックスを指定します。 • ハードウェアプラットフォームによって、ファイルシステムの名前は、例に示しているものとは異なる可能性があります。 (注) パスのところでファイルの代わりにディレクトリを指定する場合、ディレクトリ名は path flash:/directory/ のように後ろにスラッシュを付ける必要があります。このスラッシュはファイル名の後ろでは必要ありません。ディレクトリを指定する場合にだけ使います。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	switch(config-archive)# maximum number 例 : switch(config-archive)# maximum 14	(任意) 設定アーカイブに保存する実行設定のアーカイブファイルの最大数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • numberは構成アーカイブに保存できる実行構成のアーカイブファイル数の上限値を示します。指定できる範囲は1～14です。デフォルトは10です。 (注) このコマンドを使用する前に、 path コマンドを設定して、構成アーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。
ステップ 5	switch(config-archive)# time-period url 例 : switch(config-archive)# time-period 10	(任意) コンフィギュレーションアーカイブに現在実行中のコンフィギュレーションのアーカイブファイルを自動保存する間隔を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定アーカイブに現在の実行設定のアーカイブファイルをどれほどの頻度で自動保存するかを、minutes 引数により分単位で指定します。 (注) このコマンドを使用する前に、 path コマンドを設定して、コンフィギュレーションアーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。
ステップ 6	switch# write-memory	コマンドを有効にします。この機能はデフォルトではディセーブルになっています。このコマンドを入力すると、コマンド copy r s の実行時にアーカイブが発生します。
ステップ 7	switch# archive config 例 : switch# archive config	現在の実行設定ファイルを設定アーカイブに保存します。 (注) archive config コマンドを使用する前に、 path コマンドを構成する必要があります。
ステップ 8	switch# show archive log config all 例 : switch# show archive log config all INDEX LINE USER LOGGED COMMAND	すべてのユーザーの構成ログエントリを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
1	console0 user01 logging console 1	
2	console0 user01 logging monitor 2	
3	console0 user02 system default switchport shutdown	
4	console0 user02 interface mgmt0	
5	console0 user02 no shutdown	

構成ログに関する情報

構成変更ログは、アカウントログのデータを使用して、実行構成に加えられた変更を追跡します。この構成ログは、CLI または HTTP のみを介して開始される変更を追跡します。アクションルーチンの呼び出しが発生する完全なコマンドが記録されます。次の種類の入力はログに記録されません。

- 結果的に構文エラー メッセージが表示されるコマンド
- デバイス ヘルプ システムを呼び出す一部のコマンド

この構成ログは、CLI または HTTP のみを介して開始される変更を追跡します。実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 設定変更のシーケンス番号
- コマンドが実行された行
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 実行されたコマンド

show archive log config all コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 実行されたコマンド
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 設定変更のシーケンス番号

show archive log config コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

構成ログ エントリの表示

構成ログ エントリを表示するために、構成変更ログは **show archive log config all** コマンドを提供します。

手順の概要

1. switch# **show archive log config all**
2. switch# **show archive log config user *username***
3. switch# **show archive log config user *username* first-index *start-number* [last-index *end-number*]**

手順の詳細

ステップ 1 switch# **show archive log config all**

すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。

例：

```
switch# show archive log config all
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
1	console0	user01	logging console 1
2	console0	user01	logging monitor 2
3	console0	user02	system default switchport shutdown
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

ステップ 2 switch# **show archive log config user *username***

指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

例：

次の例では、指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

```
switch# show archive log config user user02
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
3	console0	user02	system default switchport shutdown
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

ステップ 3 switch# **show archive log config user *username* first-index *start-number* [last-index *end-number*]**

構成ログ エントリをインデックス番号で表示します。オプションの **last-index** を指定する場合、指定したユーザーの開始番号から終了番号までの範囲のインデックス番号を持つすべてのログエントリが表示されます。

例：

次の例では、ユーザー名 **user02** のユーザーの構成ログ エントリ番号 4 および 5 を表示します。開始インデックスと終了インデックスの範囲は 1 ~ 2000000000 です。

```
switch# show archive log config user user02 first-index 4 last-index 5
Last Log cleared/wrapped time is : Wed Oct 19 00:53:08 2016
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
-------	------	------	----------------

```

4      console0          user02      | interface mgmt0
5      console0          user02      | no shutdown

```

デバイス コンフィギュレーションの確認

構成を確認するためには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
show running-config [exclude] <i>command</i> [sanitized]	<p>現在の実行コンフィギュレーションまたはそのコンフィギュレーションのサブセットの内容を表示するには、該当するモードで show running-config コマンドを使用します。Cisco NX-OS リリース 10.3(2)F 以降、次のモードが Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • exclude : (任意) 特定のコンフィギュレーションを表示から除外します。 <p>Note exclude キーワードのあとに <i>command</i> 引数を指定し、表示から特定のコンフィギュレーションを除外します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コマンド : (任意) 1 つのコマンドのみを、または指定のコマンドノード下で使用可能なコマンドのサブセットを表示します。 • sanitized : (任意) 安全な配布と分析のためにサニタイズされたコンフィギュレーションを表示します。 <p>Note</p> <ul style="list-style-type: none"> • インストール固有のパラメータを使用せずにアクティブな実行コンフィギュレーションの内容を表示するには、コマンドを sanitized キーワードを指定して使用します。IP アドレスなどの一部のコンフィギュレーション詳細情報は、異なるアドレスで置き換えられます。サニタイズされたコンフィギュレーションを使用すると、コンフィギュレーションの詳細情報を公開せずにコンフィギュレーションを共有できません。 • 管理コンフィギュレーションモードでコマンドが入力されると、システムで設定された論理ルータを含む管理プレーンのコンフィギュレーションが表示されます。任意のグローバルコンフィギュレーションモードまたは EXEC モードでコマンドを入力すると、特定のセキュアドメインルータ (SDR) のコンフィギュレーションが表示されます。

コマンド	目的
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
show time-stamp running-config last-changed	実行構成が最後に変更されたときのタイムスタンプを表示します。

次に、コマンドで **sanitized** キーワードを指定した場合の出力例を示します。サニタイズされたコンフィギュレーションを使用することにより、コンフィギュレーションを、その詳細を表示せずに共有することができます。

```
switch# show running-config sanitized

Building configuration...

!! Last configuration change at 05:26:50 UTC Thu Jan 19 2009 by <removed>
!
snmp-server traps fabric plane
snmp-server traps fabric bundle state
hostname <removed>
line console
exec-timeout 0 0
!
exception choice 1 compress off filepath <removed>
logging console debugging
telnet vrf <removed> ipv4 server max-servers no-limit
snmp-server ifindex persist
snmp-server host 10.0.0.1 traps version <removed> priv <removed> udp-port 2555
snmp-server view <removed> <removed> included
snmp-server community <removed> RO LROwner
snmp-server community <removed> RO LROwner
snmp-server group <removed> v3 priv read <removed> write <removed>
snmp-server traps snmp
snmp-server traps syslog
interface Loopback10
!
interface Loopback1000
!
--More--
```

コンフィギュレーションファイルを使用した作業例

ここでは、コンフィギュレーションファイルを使用した作業例を示します。

コンフィギュレーションファイルのコピー

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config.
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```



Note このコマンドは、Cisco Nexus 9300-EX シリーズ スイッチに適用されません。

次に、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをコピーする例を示します。

```
switch# copy system:running-config bootflash:my-config
```

コンフィギュレーションファイルのバックアップ

この例では、bootflash: ファイル システムにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy startup-config bootflash:my-config
```

この例では、TFTP サーバにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy startup-config tftp://172.16.10.100/my-config
```

この例では、bootflash: ファイル システムに実行コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy running-config bootflash:my-config
```

以前の構成へのロールバック

現在のコンフィギュレーションを以前保存したコンフィギュレーションのスナップショットコピーにロールバックするには、次の手順を実行する必要があります。

1. **write erase** コマンドで、現在の実行イメージをクリアします を参照してください。
2. **reload** によりデバイスを再起動します を実行する前に、ユーザ名がコンフィギュレーションファイルに指定されていることを確認してください。
3. **copy configuration-file running-configuration** コマンドで、以前保存した構成ファイルを実行構成にコピーします。
4. **copy running-config startup-config** コマンドを使用して、実行構成をスタートアップ構成にコピーします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。